

掘り出されてすぐの漆塗りの櫛と耳飾り輪（119号土坑墓）

史跡カリンバ遺跡

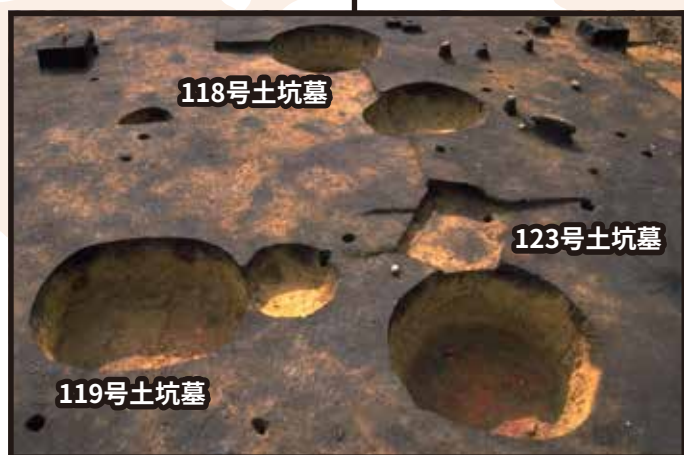
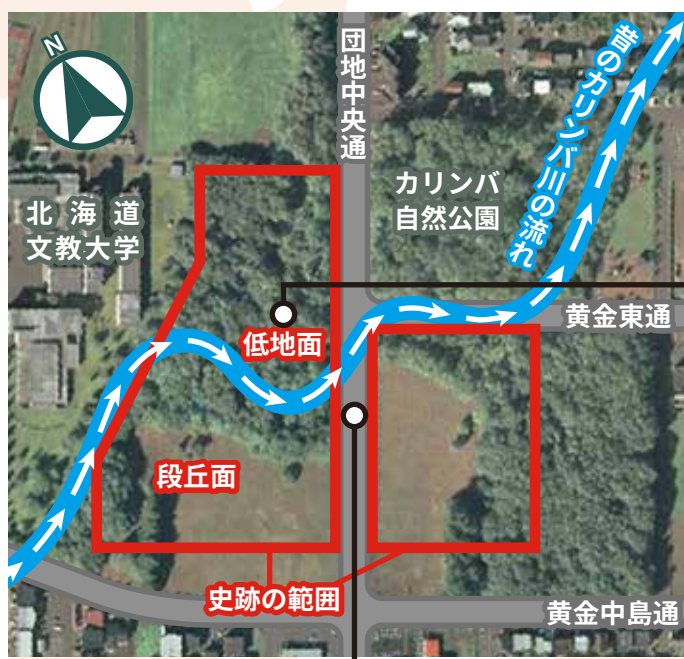
カリンバ遺跡は、1999（平成11）年に恵庭市教育委員会が行った発掘調査で、縄文時代後期末（約3,000年前）の土坑墓群が見つかり、一つの穴に2人以上を埋葬した大型合葬墓も4個確認されました。そのうち大型合葬墓3個に埋葬された人たちは、漆塗りの櫛や腕輪、腰飾り帯など数多くの漆塗り装身具を身に着けていました。カリンバ遺跡で見つかった縄文時代の漆塗り装身具は質・量とも前例のない素晴らしいものであったことから、遺跡は2005年に国の史跡に指定され、遺物は翌年に重要文化財に指定されました。

北海道恵庭市教育委員会

漆塗り櫛

撮影：小川忠博氏

史跡カリンバ遺跡は旧カリンバ川が流れる低地面と、それより2～3m高い段丘面に残された縄文時代からアイヌ文化期にかけての遺跡です。カリンバはアイヌ語で「サクラの木の皮」という意味です。昭和時代、JR恵庭駅と国道36号線に挟まれた黄金地区は畑が広がっていました。そこを土地区画整理することになり、旧カリンバ川とトーウイソ川の間を試掘調査したところ、4つの遺跡が確認されました。そのうちの一つがカリンバ遺跡です。



多数の漆塗り装身具が見つかった大型合葬墓3個

段丘面に造られた土坑墓群

市道団地中央通の建設に先立って行われた発掘調査で、縄文時代後期末(3,000年前)の土坑墓が36個見つかりました。大型の合葬墓(30・118・119・123号)は4個で、それ以外の多くは単葬墓(1人の墓)と考えられます。恵庭の地は火山噴出物からできており3,000年前の遺体は分解されて土に返っていますが、歯がわずかに確認できた墓もありました。大型合葬墓4個は直径1.6～2.5m、深さ1mほどの大きな円形をしています。わずかに残った歯と装身具などから118号は4人、119号は2人、123号は5人、30号は約7人が埋葬された墓と推定できます。中でも合葬墓3個(118・119・123号)からは数多くの漆塗り装身具(櫛や腕輪など)や石製の玉(首飾りや腕輪)などが見つかりました。これ



低地面の様子



漆塗り櫛



漆塗り髪飾り輪

重要文化財

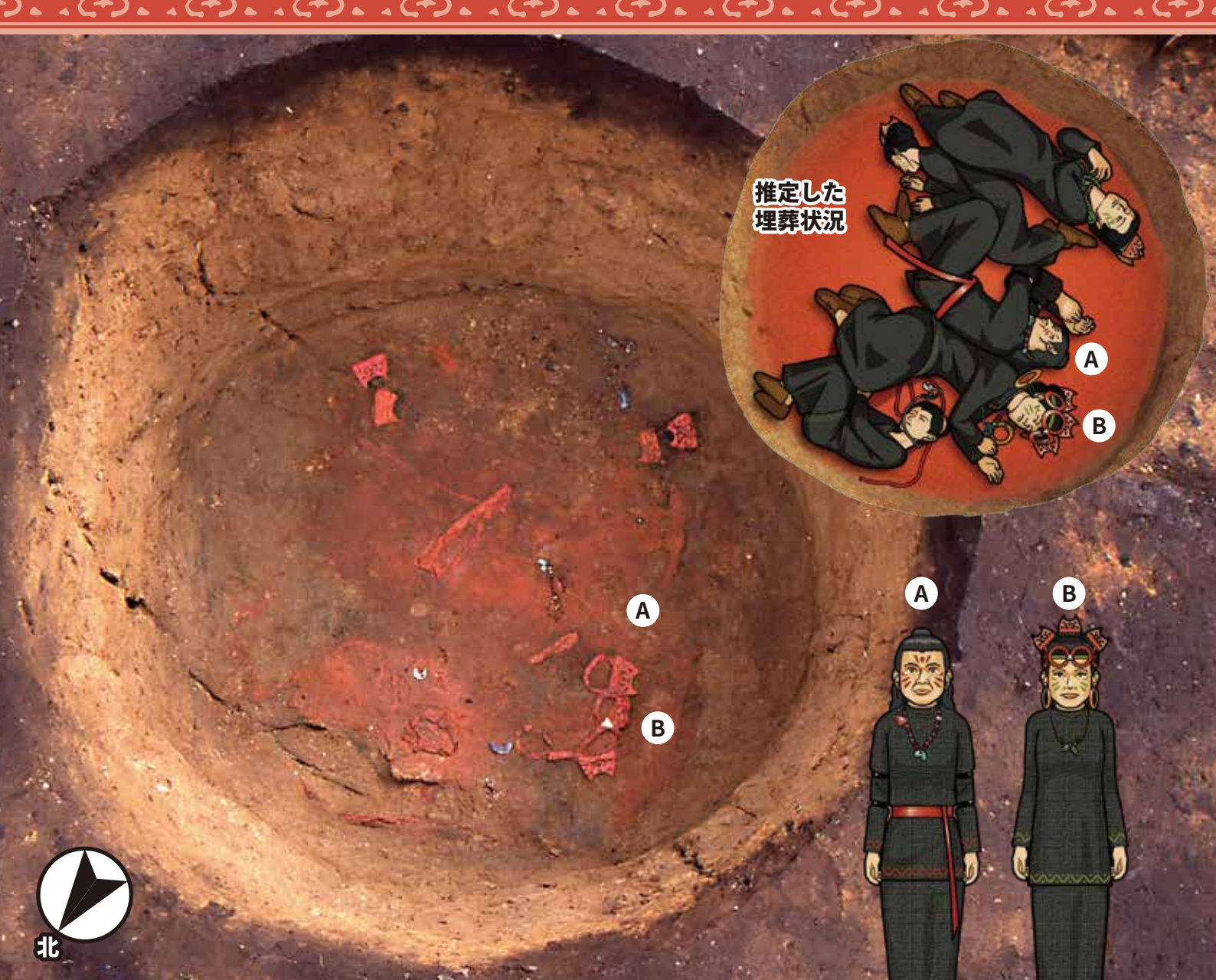
らの土坑墓群は残念ながら市道団地中央通の建設で消失しましたが、その東西には同様な土坑墓群が残っていることが確認され、その範囲が史跡に指定されました。

生活の場所は低地面

低地面では、段丘面の土坑墓と同じ3,000年前の建物跡、貯蔵穴、炉跡が見つかり、土器や石器と共に漆塗りの櫛や腕輪、石製や土製の玉、サメ歯なども出土しました。また赤い顔料の材料であるベンガラ(カダマリ)の塊や赤い顔料が付着した石皿と呼ぶまな板状の石器も見つかりました。当時の低地面は今のような湿地ではなく乾燥しており、カリンバ遺跡の土坑墓群を造った人々はそこで生活していたと考えられています。

重要文化財

合葬墓3個から出土した副葬品397点(漆塗り装身具、玉、土器、サメ歯)は重要文化財に指定されています。中でも、合わせて120点以上出土した多種多様な漆塗り装身具(櫛、腕輪、髪飾り輪、額飾り輪、耳飾り輪、腰飾り帯など)は縄文時代の漆工技術の高さを伝えるたいへん貴重なものです。漆製品は強い塗膜だけが残し、土台にした植物質の部分や漆を塗らない櫛の歯の部分には腐ってなくなっています。櫛の色は赤色、朱色、ピンク色、オレンジ色などがあり、当時の色彩感覚と表現の多彩さにも驚かされます。



123号土坑墓

5人が埋葬された123号土坑墓

123号土坑墓は直径が1.6mで、5人が合葬された墓と推定されています。墓に副葬された漆塗りの装身具は櫛7点、腕輪4点、額飾り輪4点、髪飾り輪1点、耳飾り輪2点、腰飾り帯1点、紐状製品2点があり、その他に玉・勾玉150点、サメ歯1点が見つっています。中央に埋葬されたAは漆塗りの腰飾り帯を身に着け、緑泥石岩や琥珀から作った首飾りを下げていました。縄文時代の漆塗りの帯は全国でも4点しか出土しておらず、カリンバ遺跡で2点、西島松5遺跡で2点と全て恵庭で見つっています。Aのすぐ北側に埋葬されたBは漆塗りの櫛を3個髪に挿し、サメ歯と漆塗りの額飾り輪4個を付けた布を頭に巻いていました。さらに、耳には漆塗りの輪を着け、緑泥石岩や琥珀から作った首飾りを下げていました。それ以外の3人も漆塗りの櫛や髪飾り輪を身に着けて埋葬されていました。

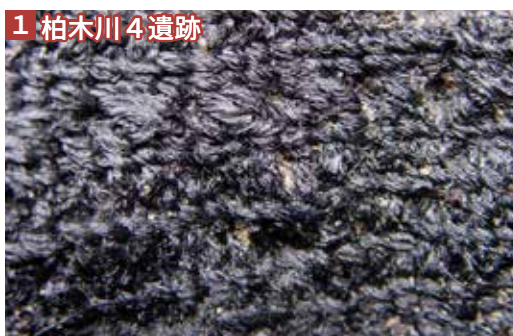
カリンバの謎

一つ目の謎は大型合葬墓と単葬墓に埋葬された人々の違いです。大型合葬墓は単葬墓に比べて漆塗り装身具や玉製品の数が圧倒的に多く、漆塗り装身具も多種多様です。また、大型合葬墓の中でも118・119・123号土坑墓には漆塗りやサメ歯を付けた腰飾り帯を身に着けた人がそれぞれ一人埋葬されていて、各合葬墓の中でも装身具に違いが見られます。これらの墓が造られた3,000年前は今よりも気温が低く、土偶や石棒などの儀式に使う道具が盛んに作られました。Aは珍しい帯を身に着けて墓の中央に埋葬されていることからシャーマンで、Bはそのお世話をする人だったのかもしれませんが。二つ目の謎は、合葬墓に埋葬された5人や7人もの人たちが亡くなった理由です。これには病気・事故・災害説、再葬説(墓を掘り返して遺骨をまとめて埋めた)、殉葬説などがあります。

北海道の年表

北海道の時代区分		年代	北海道の人の歴史
旧石器		30,000年前	北海道最古の石器（遠軽町や帯広市などの遺跡） 恵庭最古の石器（ユカンボシE10遺跡、戸磯）
縄文	草創期	14,000年前	北海道最古の土器（帯広市大正3遺跡）
	早期	9,000年前	恵庭最古の土器（恵庭公園遺跡、駒場町） 恵庭最古の竪穴住居跡（柏木川13遺跡、北柏木町）
	前期	6,000年前	恵庭最古の漆製品（西島松3遺跡） 柏木B遺跡に大きな集落
	中期	5,000年前	カリンバ1・カリンバ2遺跡（黄金地区）に道央部の中心的な集落 島松沢8遺跡に大きな溝で囲まれた集落
	後期	4,000年前	柏木川4遺跡（柏木）に縄文最大級の布製品（織物）… 1 柏木B遺跡に周堤墓（円形の穴の周りに土手をきずき、穴の底に墓を造る集団墓地） 史跡カリンバ遺跡と西島松5遺跡に多くの漆製品が入った土坑墓… 2
	晩期	3,000年前	柏木川4遺跡（柏木）に赤ちゃんの手形・足形付土製品
続縄文文化期		2,400年前	柏木B遺跡と茂漁6遺跡（柏木）に墓地 カリンバ2遺跡（黄金地区）に墓地
オホセツク文化期		1,300年前	西島松5遺跡とユカンボシE7遺跡（戸磯）に多くの金属器が入った墓地… 3 柏木東遺跡に北海道式古墳（本州から伝わった円形の丘の周りに溝がある墓）
擦文文化期			
アイヌ文化期		800年前	カリンバ2遺跡など黄金地区の旧カリンバ川流域にコタン
近代・現代		150年前現在	本州から多くの和人が北海道に移り住み始める

1 柏木川4遺跡



2 西島松5遺跡



3 西島松5遺跡



1～3 は北海道立埋蔵文化財センター提供

交通

史跡カリンバ遺跡へは

JR恵庭駅から北へ約800m、徒歩10分

恵庭市郷土資料館へは

エコバス「恵み野東7丁目」下車、徒歩10分

恵庭市郷土資料館

場 所 〒061-1375 北海道恵庭市南島松157-2

開館時間 9:30～17:00

休館日 毎週月曜日、祝日の翌日、毎月最終金曜日、12月29日～1月3日

電 話 0123-37-1288

Eメール shiryokan@city.eniwa.hokkaido.jp



史跡は現在案内板のみで、カリンバ遺跡の漆製品は郷土資料館で見学できます。

